

令和4年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

評価基準 A：十分達成〔100%〕 B：概ね達成〔80%程度〕 C：変化の兆し〔60%程度〕 D：まだ不十分〔40%程度〕 E：目標・方策の見直し〔30%以下〕

評価項目		評価の具体項目	年 度 当 初			各分掌の具体的な取組		
			現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	学力の向上	① 授業改革と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価アンケートで、「私は授業に満足している」とする生徒の割合が3年間で上昇している (R3:82.5%、R2:76.8%、R1:70.4%) ○ ICT機器を活用した授業が徐々に浸透している ○ 鳥工版STEAM教育の基礎を確立している ○ 基礎力診断テストを活用し、生徒の状況に応じて補習等を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価アンケートで、「私は授業に満足している」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ ICT機器を活用しながら、生徒がよく学んでいる ○ 鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる ○ 基礎力診断テストの評価が向上している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先端分野の導入など、生徒が夢中になるおもしろい授業実践に取り組む ○ ICT機器を活用した授業実践に取り組む ○ 鳥工版STEAM教育の授業実践に取り組む ○ 基礎力診断テストで学力を把握させ、授業への取組みに反映させる 			
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の規律を周知し、その必要性を認識させている ○ 自ら学ぶ意欲が高まるよう、授業を工夫している ○ 面談を随時行い、日々の自宅学習に真摯に取り組むよう指導している ○ 面談や補習等を行い、資格・検定取得や進路実現に向けて学習を支援している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規律ある態度で授業に臨んでいる ○ 意欲的に授業に臨んでいる ○ 予習・授業・復習・課題など、日々の自宅学習に真摯に取り組んでいる ○ 資格・検定取得や進路実現に向けて、計画的に学習に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予鈴着席の徹底など、授業の規律を周知する ○ 教養や関心の幅が広がるような授業実践に取り組む ○ 面談を随時行い、日々の自宅学習に真摯に取り組むよう指導する ○ 面談や補習等を行い、資格・検定取得や進路実現に向けて学習を支援する 			
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○ 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○ LHRや講演会等を実施し、生命の尊さや生き方の多様性等に関する考えが深められるよう努めている ○ 校外の人権教育関係研修会等の中止やオンライン開催等が相次いだり、可能な範囲で参加し、その成果を様々な場面で指導に活かしている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている ○ 一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている ○ 日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○ 人権教育LHR、性に関する指導LHRを実施し、互いを尊重する意識を高める ○ 人権教育関係研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす 			
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種安全教室、朝の交通指導、「5S」「あさひ」の指導等を行い、規律ある態度の育成を図っている ○ 部活動の大会中止が多い中、1月末累計で中国大会に75名が出場した ○ テクノボランティアは実施したが、桜ヶ丘グリーンゾーン活動は中止となった ○ 2018年度比で2月末で可燃ゴミ排出量50.4%減、電力使用量2.1%減であった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ルール、マナー、「5S」「あさひ」を心がけ、規律ある態度で学校生活を送っている ○ 多くの生徒が部活動に熱心に取り組む、大会等で活躍している ○ 社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している ○ 環境改善の意識が高まり、2019年度比で可燃ゴミ排出量5%減、電力使用量1%減となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種安全教室、朝の交通指導を行い、また「5S」「あさひ」について積極的に指導する ○ ホームページや広報誌を通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開する ○ 様々な機会を通じて社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける ○ 可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う 			
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業見学と鳥工版デュアルシステムは実施したが、インターンシップは中止となった ○ 鳥工TECは実施したが、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等は中止となった ○ 資格・検定の取得に向けて指導を行い、ジュニアマイスターの特別表彰を受賞した 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている ○ 学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる ○ 生徒全員が資格・検定を取得している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う ○ 鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う ○ 資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う 			
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校外外と連携し進路行事・進路指導を実施した ○ 就職一次試験の合格率96%、20名が大学に合格した ○ 学校評価アンケートで、「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が上昇している (R3:68.7%、R2:65.4%) ○ ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策などが充実しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己実現・進路実現に向けた意識が高まり、生徒アンケートで肯定的意見が80%以上である ○ 就職一次試験の合格率90%以上を維持し、また推薦制度等を活用し大学に合格している ○ 学校評価アンケートで、「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が70%以上となっている ○ ICT機器を活用し、主体的に進路学習を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所、外部機関等、校外外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる ○ SPI・面接・小論文模試等、個々の就職試験や進学受験に応じてきめ細かく指導する ○ 進路行事や各種情報を保護者に周知し、また進路相談に対して丁寧に対応する ○ ICT機器で進路情報の提供・活用ができるよう、環境を整備する 			
		③ 地域や産業界との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路ガイダンス等の講師を各事業所から招聘し、地域の企業の現状や企業が求める人材について理解するよう図った ○ ホームページや津ノ井地域懇談会等を通じて、学校の様子や特色等について積極的に情報発信を行ったり、意見交換を行ったりした 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域産業を支え、地域の貢献する人材としての自覚をもっている ○ 教職員が学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路ガイダンス等の講師を各事業所から招聘する ○ 学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信する 			
4	業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分掌業務を円滑に引継ぐため、電子ファイルの整理・整頓を進めているが、複数の分掌が関係する特別活動について、業務マニュアルの整備が十分ではない ○ 部活動は実施計画書を作成し、部顧問間で指導時間を調整しながら時間外業務の削減に努めている ○ 令和3年度に時間外業務が月45時間を超えた職員は、延べ11名であった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分掌業務が円滑に引継がれ、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる。また、特別活動の業務マニュアルが作成されている ○ 部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている ○ 時間外業務が月45時間を超える職員が0名である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子ファイルの整頓を確認し、業務マニュアル作成を促進する ○ 部活動実施計画書に記載された時間を確認する ○ 勤怠管理システムの定期的な入力を促す。また、AI採点を導入し、業務効率化の一助とする 			

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動
デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順